

# 諸徳寺村永命寺末寺引直し一件

朴澤直秀

The Change in the Status of Eimei-ji Temple in Shotokuji Village

はじめに

- ① 一件の前段階
- ② 引直し願いの不調
- ③ 永命寺の無住化と荒廃
- ④ 引直しの成就

おわりに

## [語彙解説]

本稿では、大原幽学により先祖株組合が組織された下総国香取郡諸徳寺村の天台宗永命寺の、門徒（寺格の低い末寺）から末寺への昇格をめぐる、諸徳寺村と、永命寺の本寺である溝原村東栄寺との間に起きた争論をとりあげた。この争論は宝永四年から正徳二年まで続き、本山寛永寺への訴訟を経て内済に至つた。従来諸徳寺村の百姓は、永命寺の宗判檀家であつて、葬儀の際の引導は東栄寺から受ける「両菩提寺」という状況であった。だが内済の結果、諸徳寺村の百姓の大部分が、東栄寺と永命寺との双方を檀那寺とする男女別寺檀制の寺檀関係を結ぶこととなつた。また、永命寺の昇格も認められた。周辺地域では男女別墓制・男女別寺檀制の存在が知られ、また、性学と、墓制の変更との関係も注目されている。勿論、男女別墓制と男女別寺檀制とは直結するわけではない。しかし、本稿を、性学以前における、当該地域の祖先祭祀を巡る習俗、あるいはそこに影響する村と寺との関係を明らかにする基礎作業として

位置付けることができるだろう。

本一件の分析を通じて、当該期における宗判寺檀関係の流動性、「両菩提寺」慣行が存在していたこと、そして、争論の当事者から、天台宗の宗務を統轄する寛永寺の執當に至るまで、男女別寺檀制の寺檀関係に対する違和感を持っていたことが認められないこと、男女別寺檀制の寺檀関係の創出に当たつて意図的に本寺を男性の檀那寺、末寺を女性の檀那寺としていることなどが確認された。